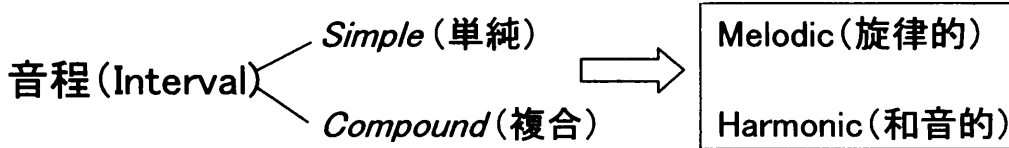


Basic Ear Training I (#2)

INTERVAL RECOGNITION (音程認識):

今回はINTERVAL(音程)について学びます。ちなみに前回のプリントは基本スケールに慣れることを目的としていました。音程には2種類があります。そして2通りの方法を用いて使用します。



単純音程というのは1オクターブ内の音程で、複合音程は1オクターブ外の音程を指します。それを同じ時間の軸で鳴らした時には和音 (Harmony)として、時間の軸をずらして鳴らせば旋律 (Melody)の一部となります。つまり音が同時に鳴るか、そうでないかです。音楽の縦軸、横軸 (VERTICAL and Horizontal)の考えです。詳しくは授業時に...

ミュージシャンにとって音程を聴いて理解できるという事は必要不可欠に思います。聴いてのみでなく、与えられた音程を頭の中で描き声に出せる事も大切です。例えばリンゴをみればみなさんはリンゴと認識でき、逆にリンゴという文字を見ればリンゴがどのようなものか頭に描けるようにです。つまりある物を見てそれをシンボル付けをできるか、またはそのシンボルを見てあるものを想像できるかです。ここではまずメジャーとマイナー・スケール内に表れるRootからみた音程の認識をします。上にも記した通り詳細は授業にて学びます。

単純音程をしっかり学べば複合音程はさほどしんどくありません。1オクターブ内には12の音が存在するのは知っていると思います、ということは13個の基本音程が存在します。

これらが知っておかなければならない「音程」の基礎です。色々書き始めれば本題に移るまでに冊子ができあがってしまうので、もし質問等があれば授業時に質問してください。

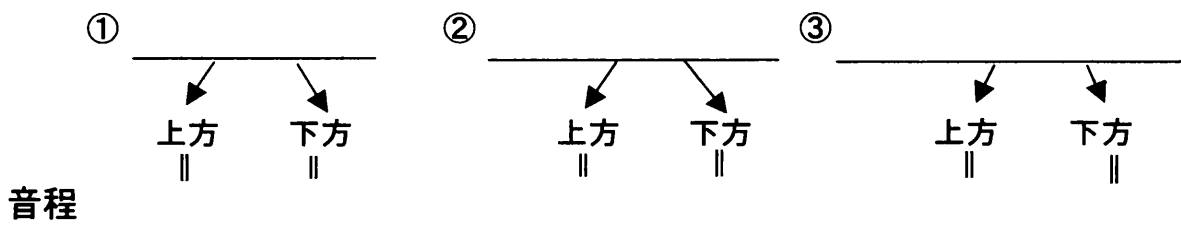
さてここからは授業と併用してのレッスンになります。ここでは上のように文章は書きません...、ので、各自でノートを取るなり、メモるなりするように。下の図などは結果にすぎません。

Simple Interval の数: _____ → そしてその全てを下に書き出す。

INTERVALS (Major Scale)

Majorのダイアトニックにおける音程を聴き分けるエクササイズです。まずこのスケールに含まれる音程の種類を書き出す。

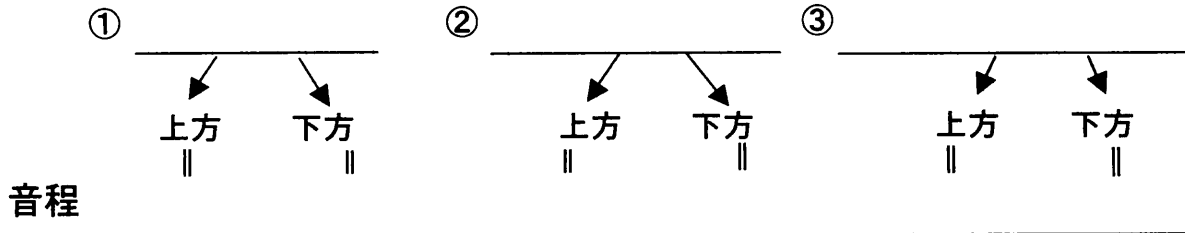
INTERVALは3つのタイプに分類されます。*あくまでも僕個人の理論なので一般ではないです。



INTERVALS (Minor Scale)

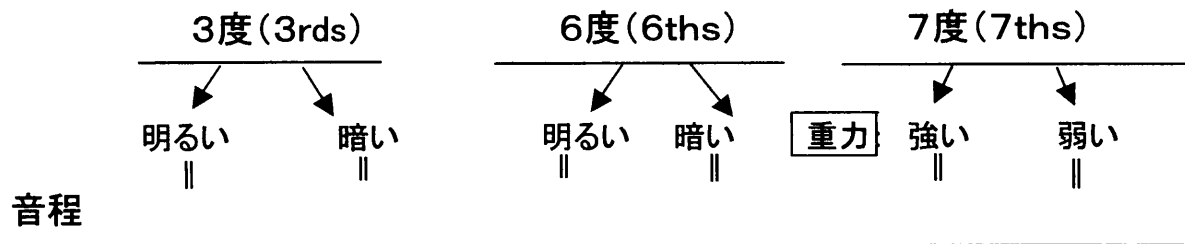
Minor Scaleにおける音程を聴き分けるエクササイズです。まずこのスケールに含まれる音程の種類を書き出す。

INTERVALは3つのタイプに分類されます。*あくまでも僕個人の理論なので一般ではありません。



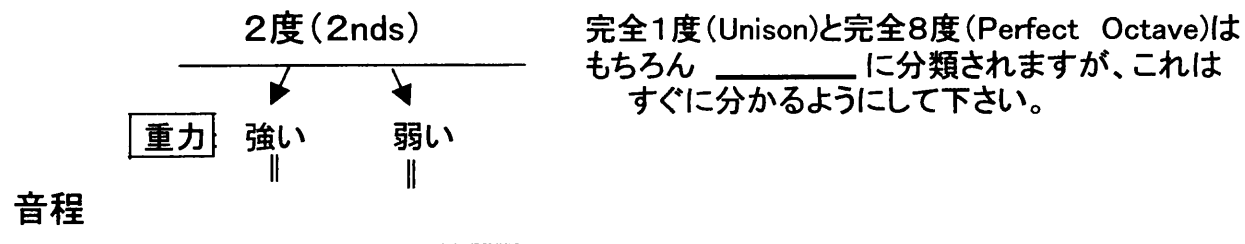
INTERVALS (Major&Minor Scale)

ここまででメジャー・マイナーの2つのスケール内に含まれる音程を聴き分けるエクササイズをしました。が、これらは長2度(M2)、完全4度(P4)、完全5度(P5)を共有し、その他の3、6、7度については2つずつ同じ所に分類されているはずですが、なのでこれらの最終分類に入ります。



これまででカバーしていない音程が4つあります。それらは…

まず2度は7度と同じ不安定に分類されるので”重力”の概念を用います。



最後に残った音程: 「 _____ 」は1番音の描写に苦労する音です。4、5度の中間の音程として「 _____ 」、または「 _____ 」という2つの呼び方があります。これらは他の2、3、6、7度と違い「 _____ 」 「 _____ 」を持たないからです。けれど今までと同じように分類するなら、これは間違いなく _____ だといえます。ここには同じ仲間として{ _____ }らが存在します。ではどう違うのでしょうか? ここには決定的に違うものがあります。それは _____ です。これで全ての音程をひと通り終える事が出来ました。ここからはBrush Upを忘れないよう。これらには”正確さ”と”スピード”が要求されます。